

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2025年6月26日(26.06.2025)



(10) 国際公開番号

WO 2025/134802 A1

(51) 国際特許分類:
A61K 8/63 (2006.01) A61Q 17/04 (2006.01)
A61K 8/34 (2006.01)

(21) 国際出願番号: PCT/JP2024/043143

(22) 国際出願日: 2024年12月6日(06.12.2024)

(25) 国際出願の言語: 日本語

(26) 国際公開の言語: 日本語

(30) 優先権データ:
特願 2023-215717 2023年12月21日(21.12.2023) JP

(71) 出願人: 株式会社 資生堂 (SHISEIDO COMPANY, LTD.) [JP/JP]; 〒1040061 東京都中央区銀座7丁目5番5号 (JP).

(72) 発明者: 栗原 誠 (KURIHARA Makoto); 〒1040061 東京都中央区銀座7丁目5番5号 株式会社資生堂内 (JP). 栗延 理絵 (KURINOBU Rie); 〒1040061 東京都中央区銀座7丁目5番5号 株式会社資生堂内 (JP).

(74) 代理人: 宮嶋 学, 外 (MIYAJIMA Manabu et al.); 〒1000005 東京都千代田区丸の内1丁目6番6号 日本生命丸の内ビル協和特許法律事務所 (JP).

(81) 指定国(表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CV, CZ, DE, DJ, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IQ, IR, IS, IT, JM, JO, JP, KE, KG, KH, KN, KP, KR, KW, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY, MA, MD, MG, MK, MN, MU, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, WS, ZA, ZM, ZW.

(84) 指定国(表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, CV, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SC, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, ME, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:

一 国際調査報告 (条約第21条(3))

(54) Title: SUNSCREEN COMPOSITION

(54) 発明の名称: 日焼け止め組成物

(57) Abstract: Provided is a sunscreen composition excellent in ultraviolet protection effect and feeling of use. A sunscreen composition according to the present invention comprises: (A) a compound selected from the group consisting of glycyrrhetic acid and a derivative thereof, and o-cymene-5-ol; and (B) an ultraviolet protective agent.

(57) 要約: 本発明は紫外線防御効果と使用感とに優れた日焼け止め組成物を提供する。本発明による日焼け止め組成物は、(A) グリチルレチン酸およびその誘導体、ならびにオーシメン-5-オールからなる群から選択される化合物、および(B) 紫外線防御剤を含んでなる。



WO 2025/134802 A1

明 細 書

発明の名称：日焼け止め組成物

技術分野

[0001] 本発明は、使用性に優れた日焼け止め組成物に関するものである。

背景技術

[0002] 紫外線が皮膚に与える悪影響を最小限に抑えるために種々の日焼け止め組成物が開発されている。一般的に、日焼け止め組成物は、紫外線吸収剤や紫外線散乱剤を含んでおり、それらによってUVAやUVBの皮膚への到達を遮り、紫外線防御効果を実現している。

[0003] このため、紫外線防御効果を強めるためには、紫外線吸収剤や紫外線散乱剤の含有量を多くすることが一般的である。しかし、紫外線吸収剤は油性化合物であることが多いため、それを増量するとべたつきなどが強くなる傾向にあり、また紫外線散乱剤は無機粉末であることが多いため、それを増量すると使用時に粉末感が強くなる傾向にある。このため、紫外線防御効果を強めようとする、使用感が劣化する傾向にあるため、紫外線防御効果と使用感との両方に優れた日焼け止め組成物が望まれていた。

このような観点から、各種の日焼け止め組成物が検討されているが、本発明者らの検討によればさらに改良の余地があった。

先行技術文献

特許文献

[0004] 特許文献1：特開2014-097935号公報

発明の概要

[0005] 本発明は、上記のような課題に鑑みて、高い紫外線防御効果と、優れた使用感とを両立した日焼け止め組成物を提供しようとするものである。

[0006] 本発明によれば、以下の発明が提供される。

[1]

(A) グリチルレチン酸およびその誘導体、ならびにオキシメー５ーオ

ールからなる群から選択される化合物、および

(B) 紫外線防御剤

を含んでなる、日焼け止め組成物。

[2]

(A) 成分が、グリチルレチン酸、グリチルレチン酸ステアシル、または
オキシメノー５オールである、[1]に記載の組成物。

[3]

(B) 成分が紫外線吸収剤を含んでなる、[1]または[2]に記載の組成物。

[4]

前記組成物の総質量を基準として

(A) 成分の含有率が0.005～1質量%であり、

(B) 成分の含有率が0.5～40質量%である、

[1]～[3]のいずれかに記載の組成物。

[5]

(A) 成分の含有量に対する(B)成分の含有量の比 B/A が0.5～8000である、[1]～[4]のいずれかに記載の組成物。

[6]

(C) 水をさらに含んでなる、[1]～[5]のいずれかに記載の組成物。
。

[7]

(D) 保湿剤をさらに含んでなる、[1]～[6]のいずれかに記載の組成物。

[8]

(E) シリコーン界面活性剤をさらに含んでなる、[1]～[7]のいずれかに記載の組成物。

[9]

(F) 低級アルコールをさらに含んでなる、[1]～[8]のいずれかに

記載の組成物。

[10]

(G) 増粘剤をさらに含んでなる、[1]～[9]のいずれかに記載の組成物。

[11]

油中水型組成物である、[1]～[10]のいずれかに記載の組成物。

[12]

油性組成物である、[1]～[10]のいずれかに記載の組成物。

[0007] 本発明によれば、紫外線防御効果と使用感とに優れた日焼け止め組成物が提供される。この組成物は、同時に殺菌制汗効果も発揮することができるので、日焼け止め化粧料だけではなく、制汗用途にも優れたスキンケア化粧料とすることもできる。

発明の具体的説明

[0008] 本発明による洗浄料は、

(A) グリチルレチン酸およびその誘導体、ならびにオーシメン-5-オールからなる群から選択される化合物、および

(B) 紫外線防御剤

を含んでなる。以下に、これらの各成分、およびさらに配合できる成分について説明する。

[0009] (A) グリチルレチン酸およびその誘導体、ならびにオーシメン-5-オールからなる群から選択される化合物

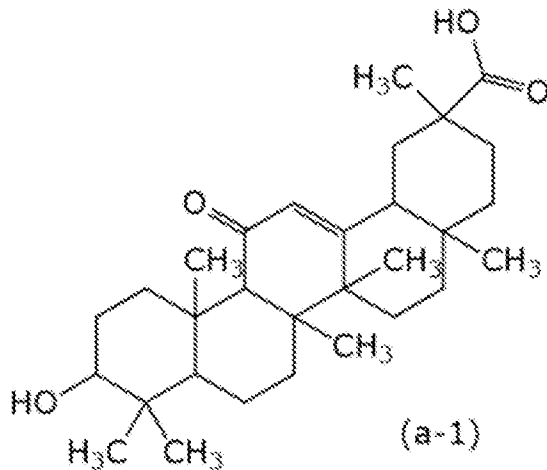
本発明による組成物は、グリチルレチン酸およびその誘導体、ならびにオーシメン-5-オールからなる群から選択される化合物（以下、(A)成分ということがある）を含んでなる。これらの化合物は、化粧品分野においては、抗菌剤や殺菌剤として用いられ、汗などに起因する臭いなどを抑制するものとして用いられることが多い。

[0010] このような従来の用途に対して、本発明者らは検討によって、この(A)成分を紫外線防御剤と組み合わせることで、紫外線防御効果を著しく強化で

きるという予想外の効果が得られることを見出した。しかもこのような効果は、知られているそのほかの抗菌剤等では得られないものであった。

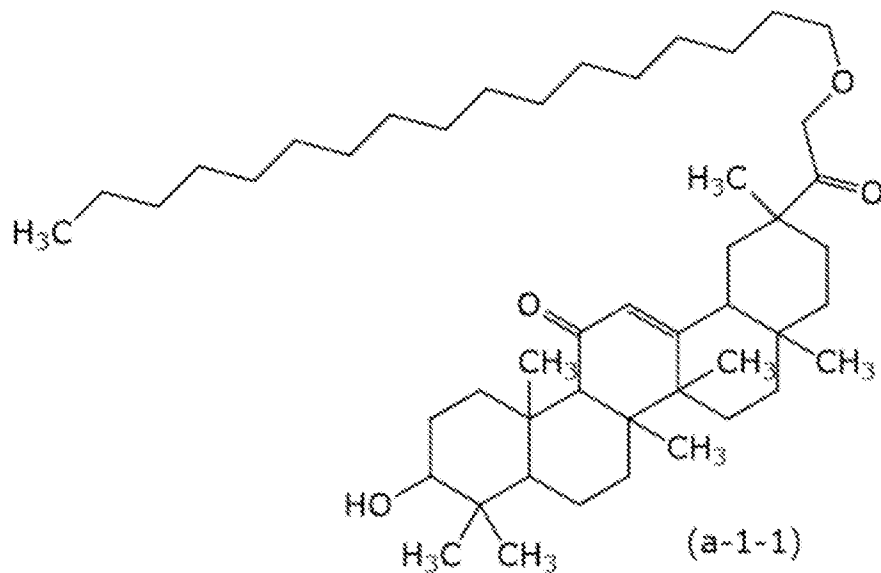
[0011] (A) 成分のひとつは、グリチルレチン酸およびその誘導体である。グリチルレチン酸は以下の式 (a-1) で表されるものである。

[化1]



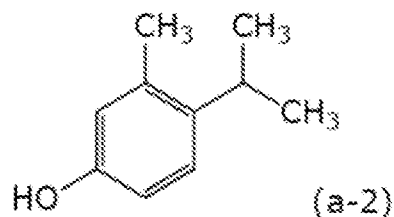
[0012] また、(A) 成分としては、グリチルレチン酸の誘導体を用いることもできる。このような誘導体としては、グリチルレチン酸と高級アルコールとのエステルが挙げられる。高級アルコールとしては、具体的には、炭素数 10 ～ 20 の脂肪アルコールが挙げることができる。より具体的にはグリチルレチン酸の誘導体として、以下の式 (a-1-1) で表されるグリチルレチン酸ステアリルが挙げられる。

[化2]



[0013] また、(A)成分のもう一つとして、 α -シメン-5-オールが挙げられる。この化合物は、イソプロピルメチルフェノールとも呼ばれるものであり、以下の式(a-2)で表されるものである。

[化3]



[0014] (A)成分は、以上説明したグリチルレチン酸およびその誘導体、ならびに α -シメン-5-オールからなる群から選択されるものであるが、特にグリチルレチン酸、グリチルレチン酸ステアリル、または α -シメン-5-オールを選択した時に優れた効果が得られる。

[0015] (A)成分の含有率は、目的に応じて任意に選択することができるが、紫外線防御効果の十分な改良を実現するために、洗浄料の総質量を基準として0.005～1質量%であることが好ましく、0.01～0.3質量%であることがより好ましい。

[0016] (B) 紫外線防御剤

本発明による組成物は、紫外線防御剤（以下、(B)成分ということがあ

る)を含んでなる。(B)成分は、UVAやUVBの皮膚への到達を遮る作用を有するものである。このような作用を有する紫外線防御剤は、皮膚に紫外線が到達する前に紫外線を吸収してしまう紫外線吸収剤と、紫外線を光学的に反射または散乱させて皮膚への到達を防止する紫外線散乱剤とに大別することができる。

[0017] 紫外線吸収剤としては、一般的なサンケア化粧料などに用いられるものから任意に選択して用いることができる。紫外線吸収剤は、油溶性紫外線吸収剤と水溶性または水分散性紫外線吸収剤に分類することができるが、本発明においては、油溶性紫外線吸収剤が好ましく用いられる。

[0018] 油溶性紫外線吸収剤としては、ケイ皮酸誘導体、安息香酸誘導体、サリチル酸誘導体、ジベンゾイルメタン誘導体、 β , β -ジフェニルアクリレート誘導体、ベンゾフェノン誘導体、ベンジリデンショウノウ誘導体、フェニルベンゾイミダゾール誘導体、トリアジン誘導体、フェニルベンゾトリアゾール誘導体、アントラニル誘導体、イミダゾリン誘導体、ベンザルマロナート誘導体、4, 4-ジアリールブタジエン誘導体、シリコーン誘導体等が挙げられる。

[0019] より具体的には、

メトキシケイヒ酸エチルヘキシルなどのケイ皮酸誘導体、

サリチル酸オクチル、サリチル酸ホモメンチル（ホモサレート）などのサリチル酸誘導体、

ジエチルアミノヒドロキシベンゾイル安息香酸ヘキシルなどの安息香酸誘導体、

エチルヘキシルトリアゾン、ビスエチルヘキシルオキシフェノールメトキシフェニルトリアジン、2, 4, 6-トリアニリノー-p-(カルボ-2'-エチルヘキシル-1'-オキシ)-1, 3, 5-トリアジンなどのトリアジン誘導体、

t-ブチルメトキシジベンゾイルメタンなどのジベンゾイルメタン誘導体、

オクトクリレンなどの、 β 、 β -ジフェニルアクリレート誘導体、
2-ヒドロキシ4-メトキシベンゾフェノンなどのベンゾフェノン誘導体
、
2, 4, 6-トリアニリノ-p-(カルボ-2'-エチルヘキシル-1'-
-オキシ)-1, 3, 5-トリアジン等が好ましく用いられる。

[0020] なお、本発明による化粧料には、水溶性または水分散性紫外線吸収剤を用いることもできる。これらの紫外線吸収剤は2種類以上を組み合わせ用いることができる。

[0021] また、紫外線散乱剤も一般的なサンケア化粧料などに用いられるものから任意に選択して用いることができる。具体例としては、微粒子状の金属酸化物、例えば、酸化亜鉛、酸化チタン、酸化鉄、酸化セリウム、酸化タングステン等を挙げることができる。

[0022] 紫外線散乱剤は、表面処理していないものでも各種疎水化表面処理したものでもよい。表面処理剤としては、化粧料分野で汎用されているもの、例えば、ジメチコン、アルキル変性シリコーン等のシリコーン、オクチルトリエトキシシランなどのアルコキシシラン、パルミチン酸デキストリンなどのデキストリン脂肪酸エステル、ステアリン酸などの脂肪酸を用いることができる。

[0023] 本発明においては、(B)成分として、紫外線吸収剤と紫外線散乱剤とのいずれを用いることもできるが、紫外線吸収剤を用いることが好ましく、紫外線吸収剤と紫外線散乱剤との組み合わせを用いることがさらに好ましい。紫外線吸収剤と紫外線散乱剤との組み合わせを用いることによって、それらを単独で用いる場合に比べて、それぞれの含有量を抑制できるために、それぞれの含有量が過大であるときの、べたつきや粉末感を抑制することができる。

[0024] (B)成分の含有率は、目的に応じて任意に選択することができるが、紫外線防御効果の十分な改良を実現するために、洗浄料の総質量を基準として0.5~40質量%であることが好ましく、5~30質量%であることがよ

り好ましい。

[0025] また、本発明においては、(A)成分と(B)成分との組み合わせによって予想外の効果が発現するものである。(A)成分と(B)成分との組み合わせによって、紫外線防御効果が強化されるメカニズムの詳細は不明であるが、その効果は(A)成分の含有量と(B)成分の含有量との割合によって変化することがある。そして、本発明による効果をより強く発言させるために、(A)成分の含有量に対する(B)成分の含有量の比 B/A は、好ましくは0.5～8000であり、より好ましくは10～800であり、特に好ましくは20～400である。

[0026] (C) 水

本発明による組成物は、必要に応じて水を含むことができる。水としては、一般的に化粧品や医薬品に使用される水を使用することができ、例えば、精製水、イオン交換水、水道水等を使用することができる。

[0027] (D) 保湿剤

本発明による組成物は、サンケア用途またはスキンケア用途に好適に用いられるので、保湿剤をさらに含むことができる。保湿剤は、一般的に化粧品や医薬品に用いられるものを用いることができるが、多価アルコールや低分子ベタイン化合物を用いることができる。多価アルコールとしては、エチレングリコール、プロピレングリコール、1,3-ブチレングリコールなどの2価アルコール、グリセリンなどの3価アルコール、さらに4価以上のアルコールを用いることができる。低分子ベタイン化合物としては、具体的には分子量200以下の、第四アンモニウム塩基、スルホニウム塩基、ホスホニウム塩基等の分子内塩で両性イオンを形成するものを用いることができる。分子量が高すぎると、肌荒れの原因となることがあるので注意が必要である。

[0028] 保湿剤として多価アルコールを用いる場合には、グリセリンを用いることが好ましい。さらに、グリセリンに加えて、ポリエチレングリコール、1,3-ブチレングリコール、及びジプロピレングリコールからなる群から選択

される少なくとも1つさらに組み合わせることが好ましい。

[0029] (E) シリコン界面活性剤

本発明による組成物を乳化型または分散型の組成物とする場合には、さらにシリコン界面活性剤を含むことができる。シリコン界面活性剤は特に限定されないが、例えばポリエーテル基やポリグリセリン基で変性されたシリコン系界面活性剤があり、このうち、ポリエーテル基で変性されたシリコン、すなわちポリエーテル変性シリコンであることが好ましい。

[0030] ポリエーテル系シリコンは各種のものが知られているが、化粧品に用いることができるものから任意に選択して用いることができる。また、このようなポリエーテル変性シリコンの分子量は必ずしも限定されないが、質量平均分子量が30000以上であるポリエーテル変性シリコンであることが好ましい。

[0031] そのほか、ポリエーテル変性シリコンとして、
ポリ（オキシエチレン・オキシプロピレン）メチルポリシロキサン共重合体、
、
ポリオキシエチレンメチルポリシロキサン共重合体、
シリコン鎖分岐型メチルポリシロキサン共重合体、
アルキル鎖分岐型ポリオキシエチレンメチルポリシロキサン共重合体、
アルキル鎖・シリコン鎖分岐型ポリオキシエチレンメチルポリシロキサン共重合体、
架橋型ポリオキシエチレンメチルポリシロキサン、
アルキル基含有架橋型ポリオキシエチレンメチルポリシロキサン
などを用いることもできる。

[0032] また、ポリグリセリン基で変性されたポリグリセリン変性シリコンとして、
分岐型ポリグリセリン変性シリコン、
架橋型ポリグリセリン変性シリコン、
アルキル基含有架橋型ポリグリセリン変性シリコン、

アルキル基分岐型ポリグリセリン変性シリコーン等を用いることもできる。

[0033] より具体的な例として、

P E G－9 ポリジメチルシロキシエチルジメチコン、
ラウリル P E G－9 ポリジメチルシロキシエチルジメチコン、
セチル P E G／P P G－1 0／1 ジメチコン、
P E G－9 メチルエーテルジメチコン、
P E G－1 0 ジメチコン、
P E G－3 ジメチコン
等が挙げられるが、これらに限定されない。

[0034] (F) 低級アルコール

本発明による組成物は、さらに低級アルコールを含むことができる。本発明において低級アルコールとは炭素数が6以下のアルコール、例えばエタノールやプロパノールである。これらの低級アルコールは、組成物を皮膚に適用した時にさっぱりとした使用感を与えることができるので好ましく用いられる。

[0035] (G) 増粘剤

本発明により組成物は、さらに増粘剤を含むことができる。紫外線防御効果に優れる本発明による組成物は、サンケア用途に好ましく用いられるが、皮膚に密着することが望まれるので、組成物が一定の粘度を有することが好ましいためである。

[0036] 増粘剤としては化粧品に一般的も用いられるものから目的に応じて適切なものを選択してもちいることができるが、例えば、粘土鉱物、デキストリン脂肪酸エステル、ショ糖脂肪酸エステル、脂肪酸およびその塩などが挙げられる。

[0037] より具体的には、

粘土鉱物として、ジステアルジモニウムヘクトライト、ジメチルアルキルアンモニウムヘクトライト、ベンジルジメチルステアリルアンモニウムヘク

トライト、塩化ジステアリルジメチルアンモニウム処理ケイ酸アルミニウム
マグネシウム等

デキストリン脂肪酸エステルとして、パルミチン酸デキストリン、オレイン酸デキストリン、ステアリン酸デキストリン、ミリスチン酸デキストリン、（パルミチン酸／2-エチルヘキサン酸）デキストリン等

シヨ糖脂肪酸エステルとして、シヨ糖カプリル酸エステル、シヨ糖カプリン酸エステル、シヨ糖ラウリン酸エステル、シヨ糖ミリスチン酸エステル、シヨ糖パルミチン酸エステル、シヨ糖ステアリン酸エステル、シヨ糖オレイン酸エステル、シヨ糖エルカ酸エステル等、

脂肪酸又はその塩として、ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸、ベヘニン酸、およびそれらのカルシウム塩、マグネシウム塩、アルミニウム塩等

が挙げられる

[0038] 本発明による日焼け止め組成物には、上記した成分以外に、化粧品に通常用いられる成分、例えば、美白剤、酸化防止剤、上記以外の界面活性剤、粉末成分、色剤などを必要に応じて適宜配合することができ、常法により製造することができる。

[0039] また、本発明による日焼け止め組成物は、油中水型組成物、油性組成物、水中油型組成物、または水性組成物のいずれであってもよいが、紫外線防御剤として油性化合物を用いることがより好ましいことから、油中水型組成物、または油性組成物であることが好ましい。いずれの性状の組成物とするかは、目的や用途に応じて適切に決めることができる。また、本発明による日焼け止め組成物は、例えば日焼け止めクリーム、日焼け止め乳液、日焼け止めローションとして提供できるのみならず、日焼け止め効果を付与したファンデーション、化粧下地、メーキャップ化粧品、毛髪化粧品等としても使用できる。

実施例

[0040] [実施例101～102および比較例101～103]

表 1 に示すとおりに各成分を配合して、油中水型日焼け止め組成物を調製した。得られた組成物について、以下のとおり物性を評価した。

[0041] 紫外線防御効果

各組成物について、波長 300 nm における吸光度を測定し、(A) 成分を含まない比較例を基準とした吸収強度の比 (単位%) を算出した。

[0042] [表1]

表 1		実施例		比較例		
		101	102	101	102	103
A	グリチルレチン酸	0.5				
	o-シメン-5-オール		0.5			
A比較	フェノールスルホン酸亜鉛				0.5	
	塩化ベンジルエーテル					0.25
B	メトキシ化ヒドロキシステアリン酸	10	10	10	10	10
	酸化チタン	10	10	10	10	10
D	グリセリン	6	6	6	6	6
E	PEG-9ポリジメチルシロキサンエチルジメチン	2.85	2.85	2.85	2.85	2.85
F	イタノール	3	3	3	3	3
G	ジステアリン酸ヒモウムヘクトライト	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2
	ヨリスチン酸イソノナール	5	5	5	5	5
	水素化ポリブタジエン	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3
	フマル酸	16.5	16.5	16.5	16.5	16.5
	トリノキサン	10.5	10.5	10.5	10.5	10.5
	PPG-17	1	1	1	1	1
	シリカ	1	1	1	1	1
	硫酸Ba	1	1	1	1	1
	EDTA-3Na	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
	クエン酸	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05
	クエン酸Na	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05
	BG	8	8	8	8	8
	フェノキシエタノール	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
C	水	残余	残余	残余	残余	残余
	合計	100	100	100	100	100
	B/A	40	40	-	40	80
評価	紫外線防御効果(比較例101基準、%)	113	106	100	93	102

[0043] なお、実施例 101～102 および比較例 101～103 の使用感は有意差が無かった。すなわち、本発明による化粧料は、使用感を損なうことなく紫外線防御効果の改良を実現できるものである。

[0044] [実施例 201～202 および比較例 201～203]

表 2 に示すとおりに各成分を配合して、油中水型日焼け止め組成物を調製した。得られた組成物について、実施例 101 等と同様の方法で評価した。

[0045]

[表2]

		実施例		比較例		
		201	202	201	202	203
A	グリセリン	0.5				
	α-シメン-5-オール		0.5			
A比較	フェノールスルホン酸非鉛塩化ベンザルエウム				0.5	
	メキシケ化酸エチルヘキシル					0.25
B	酸化ナタン	10	10	10	10	10
D	グリセリン	6	6	6	6	6
E	PEG-9ジラメチルジメチルメチン	2.85	2.85	2.85	2.85	2.85
F	エタノール	3	3	3	3	3
G	ラステアルジエウムベクトライト	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2
	オキシン酸イソブチル	5	5	5	5	5
	水添ポリブテン	1.3	1.3	1.3	1.3	1.3
	ラメチン	16.5	16.5	16.5	16.5	16.5
	トリスロキサン	10.5	10.5	10.5	10.5	10.5
	PPG-17	1	1	1	1	1
	シリカ	1	1	1	1	1
	偏酸Ba	1	1	1	1	1
	EDTA-3Na	0.2	0.2	0.2	0.2	0.2
	クエン酸	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05
	クエン酸Na	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05
	BG	8	8	8	8	8
	フェニシタノール	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5
C	水	残余	残余	残余	残余	残余
	合計	100	100	100	100	100
	B/A	20	20	-	20	40
評価	紫外線防滴効果(比較例201基準、%)	113	106	100	93	102

[0046] 実施例201～202および比較例201～203においても、使用感は無意差がなかった。

[0047] [実施例301～306および比較例301]

表3に示すとおりに各成分を配合して、油性日焼け止め組成物を調製した。得られた組成物について、実施例101等と同様の方法で評価した。

[0048] [表3]

		比較例		実施例					
		301	302	303	304	305	306		
A	グリセリン	0.1	0.01						
	α-シメン-5-オール			0.1	0.01				
B	メキシケ化酸エチルヘキシル	7	7	7	7	7	7	7	7
F	エタノール	10	10	10	10	10	10	10	10
	ラメチン	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余	残余
	オキシン酸イソブチル	50	50	50	50	50	50	50	50
	ジエチルヘキシルオキシフェニルメチルニルトリアジン	1.75	1.75	1.75	1.75	1.75	1.75	1.75	1.75
	炭素黒部アルミル	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2	3.2
	合計	100	100	100	100	100	100	100	100
	B/A	-	70	700	70	700	70	700	700
評価	紫外線防滴効果(比較例301基準、%)	100	112	117	138	116	116	110	110

[0049] 実施例301～306は、比較例301と同等以上の使用感を実現してお

り、本発明による油性日焼け止め化粧料も、使用感を損なうことなしに紫外線防御効果の改良を実現できるものである。

請求の範囲

- [請求項1] (A) グリチルレチン酸およびその誘導体、ならびに α -シメン-5-オールからなる群から選択される化合物、および
- (B) 紫外線防御剤
- を含んでなる、日焼け止め組成物。
- [請求項2] (A) 成分が、グリチルレチン酸、グリチルレチン酸ステアリル、または α -シメン-5-オールである、請求項1に記載の組成物。
- [請求項3] (B) 成分が紫外線吸収剤を含んでなる、請求項1または2に記載の組成物。
- [請求項4] 前記組成物の総質量を基準として
- (A) 成分の含有率が0.005～1質量%であり、
- (B) 成分の含有率が0.5～40質量%である、
- 請求項1または2に記載の組成物。
- [請求項5] (A) 成分の含有量に対する(B)成分の含有量の比 B/A が0.5～8000である、請求項1または2に記載の組成物。
- [請求項6] (C) 水をさらに含んでなる、請求項1または2に記載の組成物。
- [請求項7] (D) 保湿剤をさらに含んでなる、請求項1または2に記載の組成物。
- [請求項8] (E) シリコーン界面活性剤をさらに含んでなる、請求項1または2に記載の組成物。
- [請求項9] (F) 低級アルコールをさらに含んでなる、請求項1または2に記載の組成物。
- [請求項10] (G) 増粘剤をさらに含んでなる、請求項1または2に記載の組成物。
- [請求項11] 油中水型組成物である、請求項1または2に記載の組成物。
- [請求項12] 油性組成物である、請求項1または2に記載の組成物。

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2024/043143

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER**A61K 8/63**(2006.01)i; **A61K 8/34**(2006.01)i; **A61Q 17/04**(2006.01)i

FI: A61K8/63; A61Q17/04; A61K8/34

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

A61K; A61Q

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Published examined utility model applications of Japan 1922-1996

Published unexamined utility model applications of Japan 1971-2025

Registered utility model specifications of Japan 1996-2025

Published registered utility model applications of Japan 1994-2025

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

Mintel GNPD

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	JP 2013-173728 A (KOSE CORP.) 05 September 2013 (2013-09-05) paragraphs [0094]-[0099]	1-11
X	JP 2014-205664 A (KAO CORPORATION) 30 October 2014 (2014-10-30) paragraphs [0063]-[0067]	1-7, 9-10
X	Ultra UV Protective Lotion SPF50+ PA++++. MintelGNPD, [online]. May 2023, [retrieved on 31 January 2025], internet:<URL: http://www.gnpd.com>, ID: 10771332 in particular, component	1-11
X	Lotion SPF 50+/PA+++. MintelGNPD, [online]. March 2013, [retrieved on 31 January 2025], internet:<URL: http://www.gnpd.com>, ID: 2145784 in particular, component	1-11
X	Milk SPF 50+ PA++++. MintelGNPD, [online]. August 2022, [retrieved on 31 January 2025], internet:<URL: http://www.gnpd.com>, ID: 9841776 in particular, component	1-8, 10-11



Further documents are listed in the continuation of Box C.



See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

“A” document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

“D” document cited by the applicant in the international application

“E” earlier application or patent but published on or after the international filing date

“L” document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

“O” document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

“P” document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

“T” later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

“X” document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

“Y” document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

“&” document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search

31 January 2025

Date of mailing of the international search report

10 February 2025

Name and mailing address of the ISA/JP

Japan Patent Office (ISA/JP)
3-4-3 Kasumigaseki, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8915
Japan

Authorized officer

Telephone No.

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	3x Foundation SPF 20. MintelGNPD, [online]. October 2022, [retrieved on 31 January 2025], internet:<URL: http://www.gnpd.com>, ID: 9979974 in particular, component	1-8, 10-11
X	Tan Activating Protecting Oil SPF 30. MintelGNPD, [online]. June 2022, [retrieved on 31 January 2025], internet:<URL: http://www.gnpd.com>, ID: 9702826 in particular, component	1-7, 10, 12
X	CN 110934755 A (GUANGZHOU LAKAIER STEM CELL RESEARCH INSTITUTE) 31 March 2020 (2020-03-31) claims, examples	1-7, 10

INTERNATIONAL SEARCH REPORT
Information on patent family members

International application No.

PCT/JP2024/043143

Patent document cited in search report			Publication date (day/month/year)	Patent family member(s)	Publication date (day/month/year)
JP	2013-173728	A	05 September 2013	(Family: none)	
JP	2014-205664	A	30 October 2014	CN	105142604 A
CN	110934755	A	31 March 2020	(Family: none)	

A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（IPC）） A61K 8/63(2006.01)i; A61K 8/34(2006.01)i; A61Q 17/04(2006.01)i FI: A61K8/63; A61Q17/04; A61K8/34		
B. 調査を行った分野 調査を行った最小限資料（国際特許分類（IPC）） A61K; A61Q 最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの 日本国実用新案公報 1922-1996年 日本国公開実用新案公報 1971-2025年 日本国実用新案登録公報 1996-2025年 日本国登録実用新案公報 1994-2025年 国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語） Mintel GNPD		
C. 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
X	JP 2013-173728 A（株式会社コーセー）05.09.2013（2013-09-05） [0094]-[0099]	1-11
X	JP 2014-205664 A（花王株式会社）30.10.2014（2014-10-30） [0063]-[0067]	1-7, 9-10
X	Ultra UV Protective Lotion SPF50+ PA++++, MintelGNPD, [online], 2023.05, [検索日 2025.01.31], インターネット: <URL: http://www.gnpd.com>, ID: 10771332 特に[成分]	1-11
X	Lotion SPF 50+/PA++++, MintelGNPD, [online], 2013.03, [検索日 2025.01.31], イ ンターネット: <URL: http://www.gnpd.com>, ID: 2145784 特に[成分]	1-11
X	Milk SPF 50+ PA++++, MintelGNPD, [online], 2022.08, [検索日 2025.01.31], イ ンターネット: <URL: http://www.gnpd.com>, ID: 9841776 特に[成分]	1-8, 10-11
☒ C欄の続きにも文献が列挙されている。 ☒ パテントファミリーに関する別紙を参照。		
* 引用文献のカテゴリー “A” 特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの “D” 国際出願で出願人が先行技術文献として記載した文献 “E” 国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に 公表されたもの “L” 優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若し くは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を 付す） “O” 口頭による開示、使用、展示等に言及する文献 “P” 国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願の日の 後に公表された文献 “T” 国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と抵 触するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引 用するもの “X” 特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性 又は進歩性がないと考えられるもの “Y” 特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献 との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がな いと考えられるもの “&” 同一パテントファミリー文献		
国際調査を完了した日 31.01.2025	国際調査報告の発送日 10.02.2025	
名称及びあて先 日本国特許庁(ISA/JP) 〒100-8915 日本国 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号	権限のある職員（特許庁審査官） 佐々木 典子 4Z 6117 電話番号 03-3581-1101 内線 3480	

C. 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリ*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
X	3x Foundation SPF 20, MintelGNPD, [online], 2022.10, [検索日 2025.01.31], インターネット : <URL : http://www.gnpd.com >, ID: 9979974 特に[成分]	1-8, 10-11
X	Tan Activating Protecting Oil SPF 30, MintelGNPD, [online], 2022.06, [検索日 2025.01.31], インターネット : <URL : http://www.gnpd.com >, ID: 9702826 特に[成分]	1-7, 10, 12
X	CN 110934755 A (GUANGZHOU LAKAIER STEM CELL RESEARCH INSTITUTE) 31.03.2020 (2020 - 03 - 31) 特許請求の範囲, 実施例	1-7, 10

国際調査報告
パテントファミリーに関する情報

国際出願番号
PCT/JP2024/043143

引用文献			公表日	パテントファミリー文献	公表日
JP	2013-173728	A	05.09.2013	(ファミリーなし)	
JP	2014-205664	A	30.10.2014	CN	105142604 A
CN	110934755	A	31.03.2020	(ファミリーなし)	